

Press Release:2012.9.6

よむこと・紙出来

藤本由紀夫、井田照一、今井祝雄、石川亮、北野裕之、長尾浩幸

2012年10月9日(火) — 10月21日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊



【画像01】
「よむこと・紙出来」広報物イメージ
デザイン：浅野豪

ご案内

ギャラリー・パルクでは10月9日から21日までの期間、「よむこと・紙出来」展を開催いたします。

本展は「よむこと・紙出来展覧会実行委員会」の主催によるもので、藤本由紀夫、井田照一(参考出品)、今井祝雄、石川亮、北野裕之、長尾浩幸による「紙」にまつわる新作(一部旧作含む)によって構成されます。

私たちの暮らしにあって身近な「紙」。福井の越前和紙・京都の黒谷和紙をはじめ各地の伝統産業・文化として、あるいは自然環境保護の見地からも注目される紙はまた、美術表現、とりわけ現代美術にとっても大きな存在であり続けています。絵画や写真などの支持体としてのみならず、光を透過させ、軽く、柔軟でいて変化可能なその特性は、オブジェなどへの展開をはじめ、多様な表現の可能性を拡げる素材であり続けています。

本展では伝統的な素材でもある紙を使い、様々な方法論と手法による「紙の上の出来事」を作品として展示します。会場に構成された作品により、紙という素材の持つ面白さと、記号としての意味作用とを交錯させて鑑賞者に投げかけるものです。

現代美術の表現における「紙」の持つ意味を問いかけることは、我々の暮らしや文化について思索する契機となるかもしれません。

身近な「紙」からはじまる多様・多彩な表現の数々をお楽しみください。

Press Release:2012.9.6

よむこと・紙出来

藤本由紀夫、井田照一、今井祝雄、石川亮、北野裕之、長尾浩幸

2012年10月9日(火) — 10月21日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 よむこと・紙出来

出品作家 藤本由紀夫、井田照一、今井祝雄、石川亮、北野裕之、長尾浩幸

会期 2012年10月9日(火) — 10月21日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊

主催 「よむこと・紙出来」展覧会実行委員会

協力 Gallery PARC

助成 成安造形大学特別研究助成

料金 無料

展示内容 【平面・立体作品】 6名の作家による「紙」をテーマにした展覧会。

伝統的な素材でもある紙を使い、異なる方法論と手法を用いて、その「紙の上の出来事」を作品として展示する。

本展にあわせ藤本由紀夫、井田照一、今井祝雄、石川亮、北野裕之、長尾浩幸の6名の作家によって制作された新作(井田照一作品のみ旧作を参考出品)を展示。

会場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

【Tel & Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com 【HP】http://www.galleryparc.com

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。

三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階

問い合わせ Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル[ル・グランマーブル カフェ クラッセ] 2F

【Tel & Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com

主催者による趣旨文

「よむ」とは本を読む、歌を詠む、事態・成り行きを読む、心を読むなどの意味が含まれており、言葉の中に様々な解釈が生まれてくる。その言葉を綴る紙は、手紙、ノート、楽譜、地図、書物のほか、書や写真、絵画表現にもひろく使われてきた。現代美術の表現においても紙の持つ意味を問いかけることは、我々の暮らしや文化について思索する契機となるだろう。

紙について滋賀の周りを見渡せば、福井の越前和紙をはじめ、京都の黒谷和紙、奈良の吉野和紙、岐阜の美濃和紙、三重の伊勢和紙など歴史と伝統を誇る産業として存在している。滋賀の紙といえば、素材に大型の多年草としてヨシが思い浮かぶだろう。ヨシ群落は水質浄化や湖岸保護の機能を持ち、今日も植栽がおこなわれている。これまでも丈夫な葉や茎を利用して、よしずやよし紙として伝統的に利用されている。また、豊かな清水と山野に自生する「雁皮・がんび」を原料とする近江雁皮紙は、保存に優れており強靱で滑らかな地肌が美しく、料紙や表具、修理用紙のほか版画紙や出版にも使われる。紙の製造行程は、地域によって様々であるが、良質な水や石灰、優れた製紙原料に恵まれた場所にあつて、熟練した職人の手によって渡かれたもので、繊細で独特の風合いと丈夫な機能を持ち合わせている。そしてこの固有の素材から多くの作家が触発され数々の作品が生まれてきたのだ。

現代美術の中でも紙の存在は大きく取り上げられており、描くための支持体にとどまらず、柔軟で変化することが可能な素材として多くの作家が挑んでいる。紙の繊維は墨や絵具を程よく吸込み、時に軽やかな表面は強固なオブジェとして生まれ変わることもできる。また、大量の情報が行き交う環境の中では、新しいメディアの登場によって、改めて紙の持っている潜在性を解放し、紙本来の素材としての多様性を見いだせるだろう。さらに、様々な価値観の中で古くから地場産業として守り続けて来た技術に着目することは、地域の文化や伝統の中で息づく紙の存在を見直す契機となるだろう。本展では、「よむこと」の意味を問いかける作家が、伝統的な素材でもある紙を使い、異なる方法論と手法を用いて、その「紙の上の出来事」を作品として展示する。会場で構成された作品によって、紙の持つ面白さと、記号としての意味作用とを交錯させて鑑賞者に投げかけるものである。

Press Release:2012.9.6

よ む こ と ・ 紙 出 来

藤本由紀夫、井田照一、今井祝雄、石川亮、北野裕之、長尾浩幸

2012年10月9日(火) — 10月21日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊

【出品作家略歴】

藤本 由紀夫 FUJIMOTO, Yukio

1950年 名古屋生まれ。大阪芸術大学音楽学科卒。70年代よりエレクトロニクスを利用したパフォーマンス、インスタレーションを行う。80年代半ばよりサウンド・オブジェの制作を行う。音を形で表現した作品を個展やグループ展にて発表。その作品をつかったパフォーマンスを行うなど、空間を利用した独自のテクノロジーアートの世界を展開している。

井田 照一 IDA, Shoichi

1941年 京都生まれ。1965年 京都市立美術大学西洋学科専攻科修了。2006年 京都にて逝去。独自の創作コンセプト「Surface is the between (表面は間)」は、版画の制作過程からの着想を背景にしている。現代美術において、版画が有効な方法論を持った時期に、ペーパーワーク、セラミック、ブロンズなど、表現の可能性をもっともふさわしい素材と方法で具現化した。

今井 祝雄 IMAI, Norio

美術家。1946年 大阪生まれ。もと具体美術協会会員。1966年、第10回シェル美術賞一等賞受賞。以来、内外の展覧会に出品多数。著書に『白からはじまる一私の美術ノート』(ブレンセンター)、『デイリーポートレート—四半世紀・記憶の日記』(スタジオ・ワープ)がある。

石川 亮 ISHIKAWA, Ryo

1971年 大阪生まれ。1995年京都精華大学美術学部卒業。現在、成安造形大学美術領域非常勤講師兼附属近江学研究所研究員。交通インフラやそのシステムの興味から作品制作を始める。宗教観と自然観を生活の中に取り込み、自然と対峙しながらも共存してきた日本人の感覚に注目している。

北野 裕之 KITANO, Hiroyuki

1972年 京都生まれ。1997年京都精華大学大学院美術研究科造形専攻(版画)修了。現在、京都精華大学芸術学部講師。人が持つあいまいな、複雑な感覚を光と影と捉えた作品(まだらな闇 | Spotted, Darkness)や、儚さや、うつろう事象を自分が見た風景や被写体を手がかりに制作した作品(目にみえない風景 | Invisible, Scenery)などを展開している。

長尾 浩幸 NAGAO, Hiroyuki

1960年 大阪生まれ。1986年京都市立芸術大学大学院絵画専攻版画修了。成安造形大学准教授。80年代よりアートのメディア性に着目しつつ、版表現を用いたインスタレーションを発表。90年代以降は「居場所・眠り・知る・感じる」など、我々が生きることと切り離せない事柄を取り上げ、絵画表現を起点にしながら様々な手法で作品を制作している。

・ よ
紙 む
出 こ
来 と